

約300種の花が咲く  
花の湿原

### ラムサール条約登録湿地

## 霧多布湿原カヌー ツーリングコース

人が立ち入ることのできないラムサール条約登録湿地の霧多布湿原には、ほぼ中央を流れる琵琶瀬川を航行できるカヌーツーリングコースがあります。背の高い水草の群落に囲まれ、探検家のようにゆっくり進むとやがて目の前に霧多布湿原の雄大な景色が開けます。海が近いので潮の満ち引きによって水位が変わる湿原内の風景は霧多布湿原ならではの特徴です。霧多布湿原の「川下りルール・マナー」があるので、初めての方は地元ガイドツアーへの参加をお願いします。

霧多布湿原では「タンチョウ保護」を目的に、繁殖時期を外した6月1日からカヌー航行を開始しています。カヌーを楽しむ前に「霧多布湿原センター」での受付をお願いします。



カヌー利用時の  
お願い



### 琵琶瀬川でカヌー

浜中の森から湿原、湿原から海までのつながりを、6月1日から川が結氷するまで穏やかな流れをゆったりと感じることが出来ます。この地で仕事をしている私たちは、多くの人たちに霧多布湿原の素晴らしさを知ってもらうためにカヌーツアーを行っています。そして、霧多布湿原の自然を守ること私たちの仕事であると考えています。



宿房 榎のん  
オーナー  
進藤浩一さん



### 動植物との出会い

普段立ち入ることのできない霧多布湿原にカヌーで入ると、留鳥のオジロワシやタンチョウ、夏鳥のシギ・チドリ類などさまざまな野鳥や汽水域に繁殖する植物と出会います。バードウォッチングは、渡鳥がやって来る6月と、オオワシが見られる2月がおすすめです。花を見るなら木道や湯沸岬をおすすめします。



霧多布湿原  
センター職員  
太田愛梨さん



### サンセットカヌー

森から湿原で蓄積されるミネラル分が川から海に運ばれて、豊かな海を育みます。私の本業は漁師です。仕事が終わる夕方、手製のウッド&キャンバスカヌーを琵琶瀬川に浮かべ、自然の中で自然素材の道具を使って遊び、家に帰って浜中でとれるおいしい海産物の夜ご飯を食べるといった私のライフスタイルそのままをツアーガイドしています。



風と土のナベカ  
代表  
渡部貴士さん

### 川下りのマナー・ルール

- 動物の写真撮影するときは、フラッシュなどの光や物音で驚かせないようにお願いします。
- タンチョウを見かけたときは、騒がず、接近しないで、ゆっくり航行しましょう。特に、ヒナを連れてある場合には、家族が避難できるように最大限の注意をお願いします。
- 野生動物に出会ったときは、近づいたり、エサを与えたり、大きな声を出したり、手を振ったりせず、静かな観察をお願いします。
- 定められたカヌー発着場場を利用しましょう。また、カヌー発着場・休憩地点以外は、上陸しないようお願いします。
- 植物を踏み荒らしたり、採取したり、昆虫や両生類、魚などの動物をとらないようお願いします。
- 野生動植物が数多く生息している地域です。ゴミは持ち帰り、事前にトイレを済ませるようお願いします。



天然記念物エリア。対岸もラムサール条約登録湿地のため、上陸禁止。

まずはここに立ち寄って相談しましょう。

ヨシ、スゲ、イグサ、アシなど、低層湿原特有の植生や泥炭をごく間近に見ることができます。

野鳥観察小屋が設置されている木道からタンチョウなどを見ることが出来ます。

7月～10月上旬は昆布漁の繁忙期です。昆布船出港時(5:00～9:00)のシーカヤック出航は控えます。

入島には、指定された町内のアウトドアガイドの同行が必要です。

濃い緑色のエリアは昆布漁師さんが水揚げした昆布を干す場所です。立ち入らないようお願いします。

ときにはラッコやアザラシなど珍しい海の動物に出会うこともあります。シーカヤック5艇分以上の距離をとり、配慮のうえ、野生動物を鑑賞しましょう。双眼鏡の携帯がオススメです。

浜中町のエアズロック  
海鳥の楽園

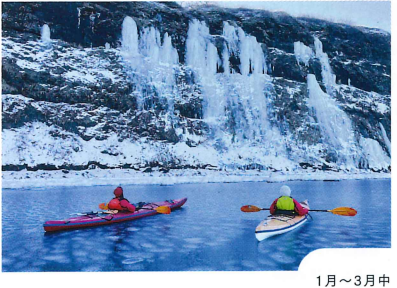
貴重な動植物の宝庫をガイドと共に!

## 浜中町の海のルール

浜中町は、森と湿原と海が自然な状態のまま断ち切れることなくつながる希少な環境を守るまちです。豊かな水産資源の恩恵を享受する地域だからこそ生まれた「浜中町の海のルール」を守り、まちの歴史・文化・産業を熟知する町内のアウトドアガイドが、訪れる皆さんの海と島の探検をお手伝いします。



森から川、湿原を通して、コンパクトに楽しめる湿原です。



### シーカヤックツアー

風の吹き方により波が穏やかな地点からスタートします。漁船の通り道を通るので船との接触が危険なこと、海霧が出ると視界がゼロになり、風や波が強くなると初心者や体力のない方は漕げなくなるので、カヌー常連の方へご案内しています。澄んだ空気の中、嶮暮帰島北壁の地層から滲み出た水の氷瀑を眺めます。

1月～3月中旬まで、操縦技術のある方を対象に実施しています。



LandEdge  
代表  
芦田政雄さん



### 嶮暮帰島の散策

普段行くことができない無人島「嶮暮帰島」に小舟で渡り、島内を探検散策するエコツアーです。琵琶瀬港から約10分で島に到着。海岸を歩き、海拔60mの丘の上に登り、休憩ポイントまで40分ほど、季節ごとに咲く野の花や野鳥観察を楽しみます。かつての住民の生活跡も見られ、自然・文化・産業の成り立ちを体感できます。

年により前後しますが、5月～10月までご案内しています。



ペンション  
ボーテ  
オーナー  
瓜田勝也さん



### 霧多布湿原の冬遊び

湿原と川が凍る冬の遊びに「歩くスキー」「スノーシュー」「釣り」があります。歩くスキーとスノーシューはレンタルを行っています。オオワシ、オジロワシなどの猛禽類や、氷の上でオオハクチョウが群れて休んでいる姿を見られることもあります。動物自体が見れなくてもエゾシカ、キタキツネ、ネズミなどの足跡をたくさん見つけることができます。

霧多布湿原センターで歩くスキーのコースもご案内しています。



霧多布湿原  
センター係長  
島崎 崇さん

### シーカヤックのマナー・ルール

- 湾内では養殖漁もっており、漁船の往来が日常的な区域です。特に航行には漁船に注意のうえ、昆布干場(私有地)への車の乗り入れはやめましょう。
- 波がたかいたとき、霧が濃いときは出航を中止しましょう。
- ウニの養殖カゴ・漁網にむやみに近づいたり、漁船の航路を妨げたり、周囲に心配や迷惑をかけるような行為は絶対にやめましょう。
- 漁港への出入港は危険であり、漁船に迷惑です。北海道の条例でも禁止されています。
- ライト、天気図などを用意して防水措置を講じた携帯電話を携帯しましょう。
- 海を漕ぎ切るためには徹底した自己管理が求められます。航行しながら携帯電話で通話したり撮影することはやめましょう。